

男女共同参画に関する 市民意識調査結果(抜粋)

いわき市では「第四次いわき市男女共同参画プラン」策定の参考とするため、市民の皆さまの男女共同参画に関する意識や実態を総合的に把握することを目的に、意識調査を実施しましたので、その調査結果の一部をお知らせします。



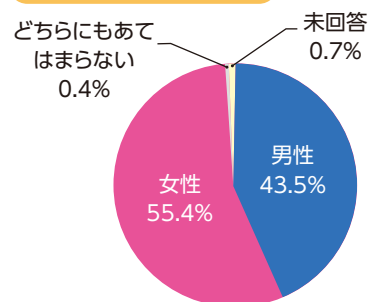
調査の概要

- ・調査対象 いわき市住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の市民2,000人
- ・調査期間 令和元年8月1日～8月23日
- ・有効回答者数 540人(回収率27.0%)

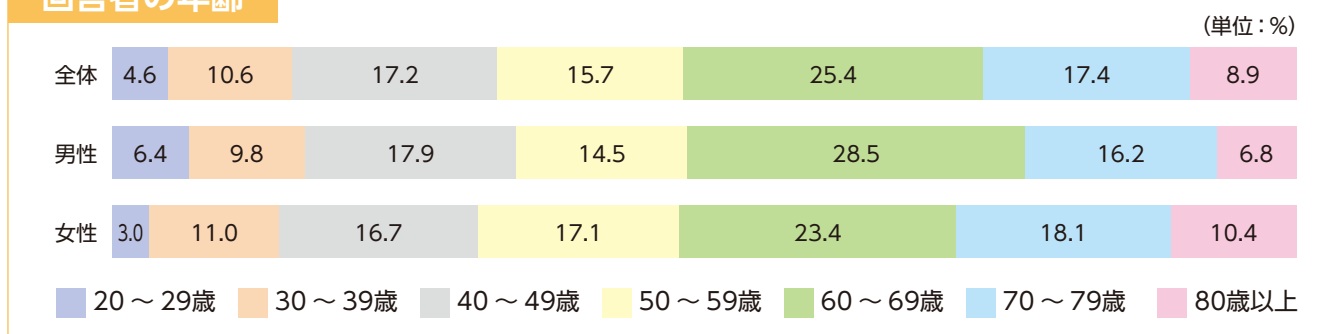
※回答者の割合については、すべて百分率で表し、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

※複合グラフでは煩雑を避けるため、構成比が3%以下の数値は非表示にしています。

回答者の性別

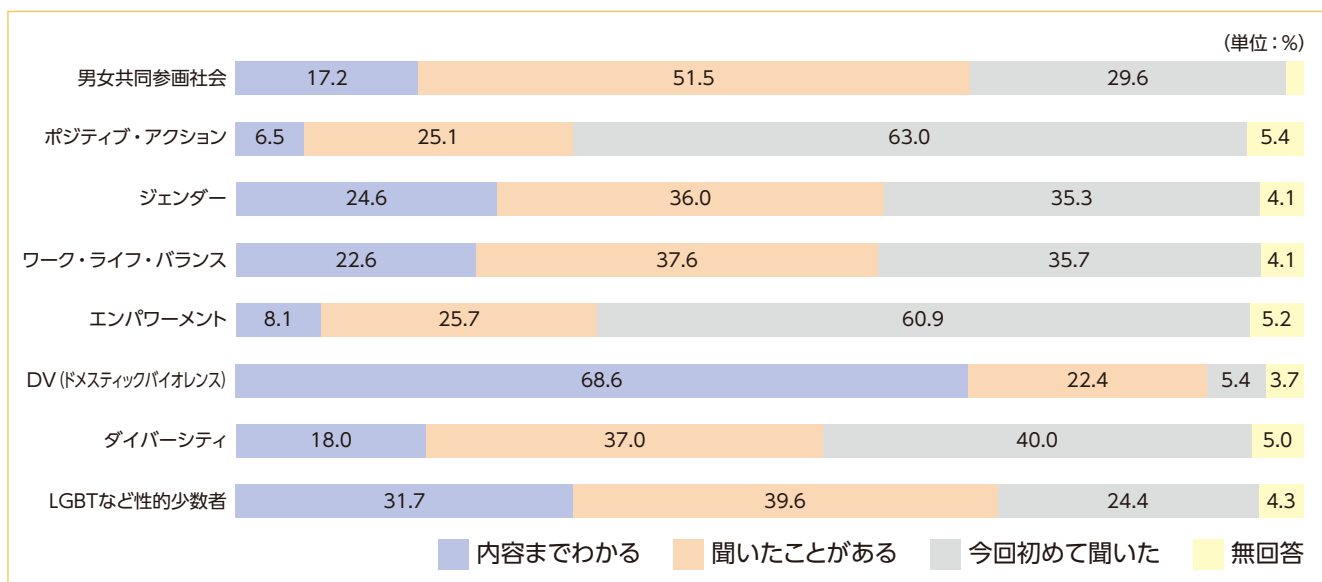


回答者の年齢



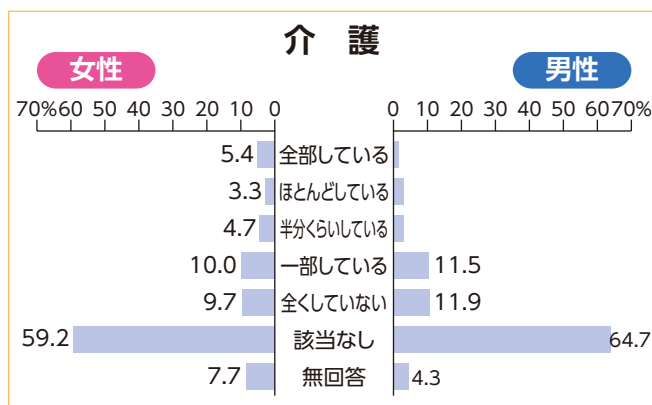
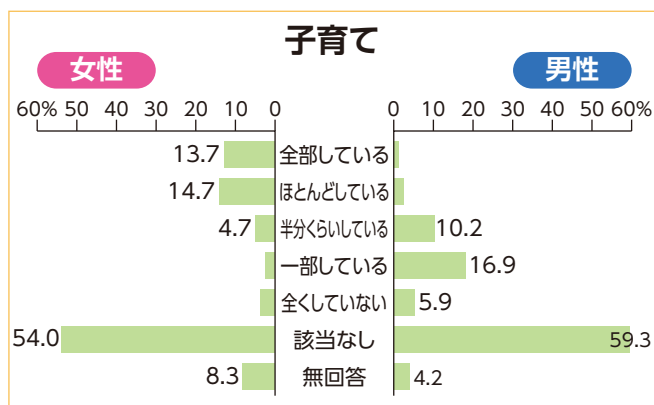
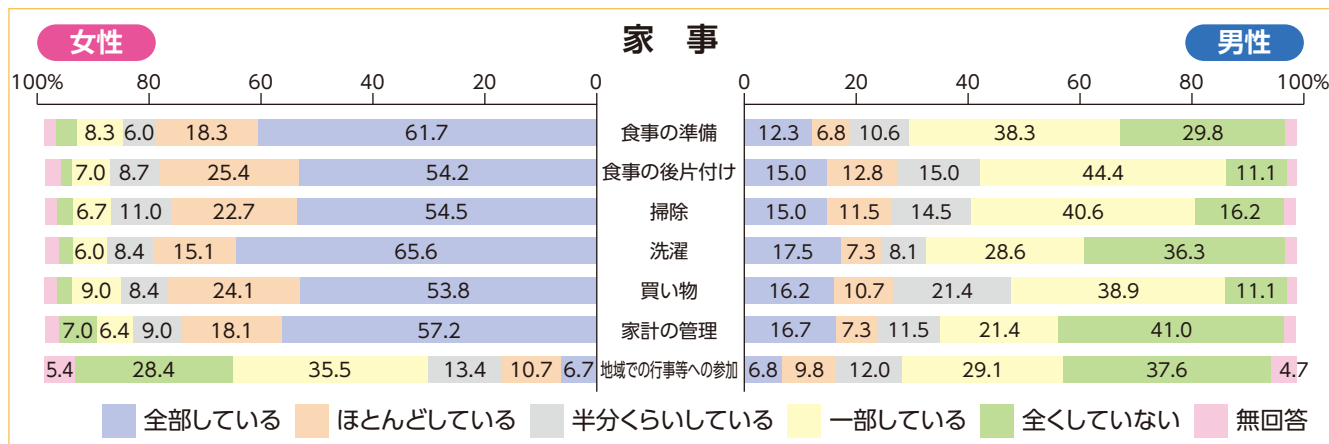
男女共同参画関連用語の認知度

「内容までわかる」「聞いたことがある」で91%を占める「DV(ドメスティックバイオレンス)」が最も認知度が高く、次いで「LGBT」など性的少数者の71.3%、「男女共同参画社会」68.7%となっています。



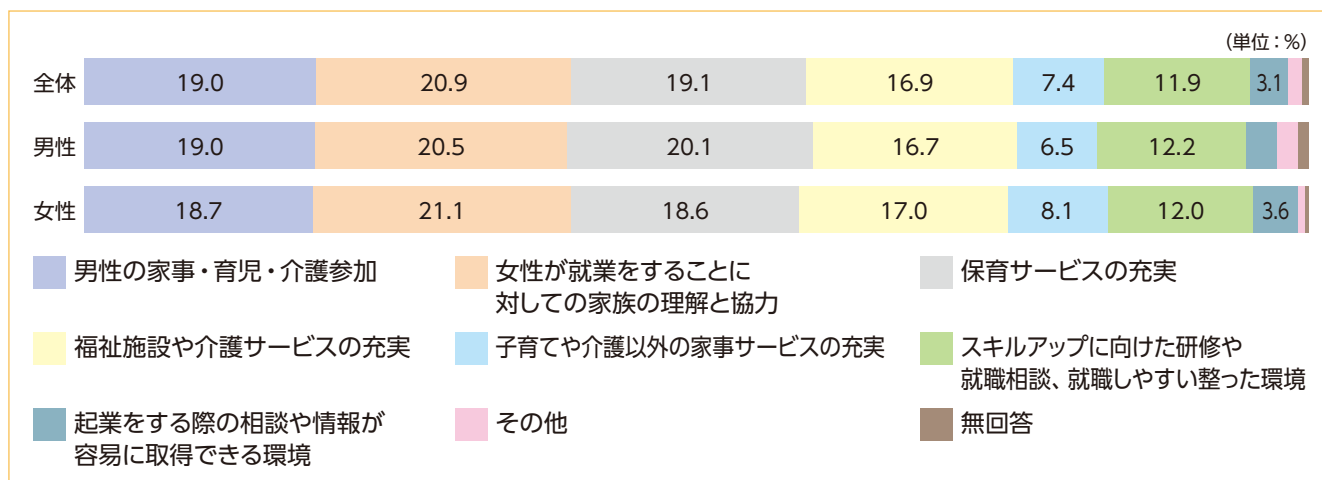
家庭における役割分担意識

食事の準備、後片付け、掃除、洗濯、買い物等ほとんどの項目で女性の「全部（ほとんど）している」の割合が男性より高くなっています。男性がしている割合が上昇している項目があっても、依然、家庭においては女性の負担が大きいことがわかります。



女性が社会で活躍するために必要なこと

男女にあまり差はなく同じ認識の傾向にあることがわかりました。その他の自由記載欄には「賃金格差の是正」「子どもの頃からの教育」「社会の理解」などがありました。



調査にご協力頂きありがとうございました。
貴重なご意見・調査結果を今後の施策に活かしていきます。

